

エピソード63

うちの子のことをもっとみてください！



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。エデュサポネットのファ
シリテーターです。



小学校で学級担任をしている先生の経験を紹介します。

私が40歳前半の頃、転勤してすぐに6年生の担任になったときのことです。その学級は、学級崩壊気味で授業中の不規則発言が飛び交うような学級でした。

学び方のルール、休み時間の過ごし方、友達へのことばがけ、当番活動の決まり事、学校の顔としての6年生の自覚等々、たくさん問題があると考えました。





それで、先生はどうしようとしたんですか？

当初は前担任の指導に疑問を持ち、前担任の指導法を否定したこともありました。

しかし、子どもたちは、前担任の人となりを好んでおり、前担任の指導法を変えることを非常に拒みました。





保護者たちから、何か話しがありませんか？

そうなんです、保護者からも「もっとうちの子をみてください！」と言われました。

それも、ひとりの保護者から言われただけでなく、3～4人の保護者から同じようなことを言われました。とてもショックでした。





それから、先生はどうしたんですか？

大変悩み、先輩の50歳前半の先生に相談しました。その先生だったら、きっと私の考え、気持ちをわかってくれると思ったんです。

でも、「あの子たちは無邪気で子供っぽくてかわいいから、ひとりひとりの子どもと向き合い、一人ひとりの良さを認めてあげたら、きっと変わっていくんじゃない。焦らないで」と期待していた内容とは違うアドバイスがかえってきました。





それは、先生にとってはまたショックなことでしたね。

私は、頭をガツンと殴られた気持ちになりました…。でも、確かに、授業を成立させよう、集団として高めようという気持ちが先だっていました。

基本中の基本である、児童理解には目が向いていなかったことを反省しました。それからは、休み時間、子どもたちとよく遊び、たくさん話し、たくさん笑い、楽しい時間を過ごしました。





その後の子どもと保護者たちの様子はいかがでしたか。

そうですね、気づくと、学習中の不規則発言やわがままに見える行動が減っていました。

保護者からは、行事の時に、子どもが家に帰って、学校での様子をうれしそうに話していると声をかけてもらえるようになりました。





なみちゃんの一言

- 先生は、この経験で、子どもたちの心に寄り添っていなかったことに改めて気づかされたと話してくれました。
- 保護者は子どもの様子に敏感です。同じことを複数の保護者から言われるときは、たとえば、同僚の先生に相談してみるなど、時間をとって少しゆっくりと学級の様子をふりかえってみてはどうでしょうか。
- 同僚の先生に相談することで、視野を広げることができます。そうすると、子どものよいところがみえてきます。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)